病棟保育士導入の有用性についての検討
～看護師と患者家族へのアンケート調査から～

キーワード：小児看護・病棟保育士・遊び

1病棟5階東
出射和美　前田美恵子　安本寿美江　猪木真紗美　板垣智恵子

はじめに

小児の成長発達において，遊びは欠かすことのできない要素である．また，入院中の児にとっても入院生活や治療，処置による苦痛や緊張を緩和するためにも遊びは必要である．しかし看護師は日々の処置やケアに追われ，患児と関わる時間が持てず，充実した遊びの援助が行われていないのが現状である．その中で，当科では患児の精神的健康や成長発達を促すために，平成18年10月から遊びの専門職である病棟保育士(以下，保育士)が導入された．

今回，保育士導入により，看護師・患児・患者家族の環境がどのように変化したかを，独自のアンケートにより調査し，保育士の有用性について検討した．

Ⅰ.研究目的

保育士導入前後の患児の変化，患者家族・看護師の意識，保育士の業務の実態を把握し保育士の有用性を検討する．

Ⅱ.研究方法

【研究期間】平成18年10月から平成18年11月

【対象】

1. 調査に同意を得られた当科に勤務する看護師１７名
2. 調査に同意を得られた保育士と接する機会が多かった３～５歳の幼児期の患児を持つ家族10名

【調査方法】

1. 対象者に独自の質問紙を配布，無記名で記入してもらい，質問紙による留置調査法（他項目選択式+自由記載法）を行う．
2. 看護師が対象の家族に対し直接聞き取り調査を実施．

【内容】

1）保育士導入における利点，欠点
2）患児の反応
3）保育士業務に対する要望

倫理的配慮：調査の目的，概要を口頭で伝え，個人が特定できないよう処理し，研究以外の目的には使用しないことを説明した．

Ⅱ.結果

1.看護師への意識調査

アンケートの回答率は８８％．当院小児科に勤める看護師を対象に保育士導入後から１ヵ月後に患児・家族の反応等のアンケートを行い，以下の結果が得られた．

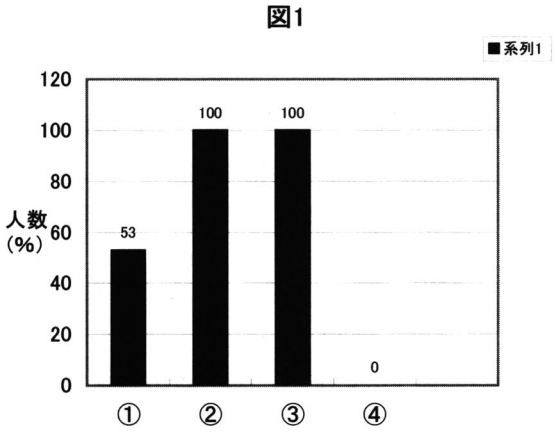
1）保育士導入における利点，欠点(図 1)

① ケアの充実 53%

② プレイルームの充実 100%

③ 行事の充実 100%

④ その他 0%



2）患児の反応(図2)

① 笑顔が増えた 53%

② 泣く回数の減少 46%

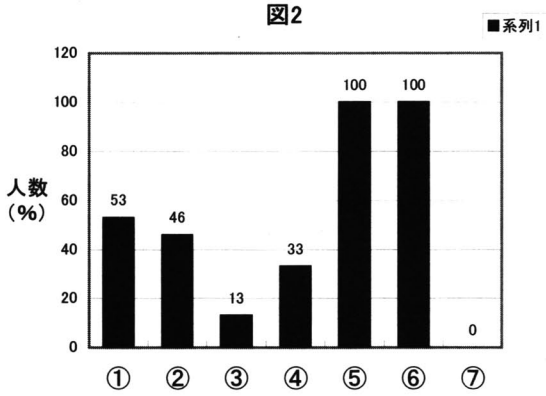
③ 言葉を覚えた 13%

④ 規則正しい生活ができた 33%

⑤ 他の患児と交流を持つようになった 100%

⑥ 家族がいなくても遊べるようになった 100%

⑦ その他 0%



3）保育士業務に対する要望

① プレイルームでの児の様子などを情報提供してもらう

② 児の体調や処置の予定，付き添いの有無等を情報提供する

③ 病室（クリーンルームの児，症状が落ち着いてきた感染の児など）にも訪室する回数を増やす

2．患者家族への聞き取り調査

同じ内容で患者家族 10 人に聞き取り調査を行ったところ，以下の結果が得られた．

1） 保育士導入における利点，欠点

① 子供を気にしないで安心して買い物に行ける

② 今までの入院では治療のため，元気のない子供の姿を見ることが多く親として辛かったが，保育士と遊ぶ楽しそうな姿を見て安心した

③ 発達段階に応じた遊びの提供をしてもらえる

④ 常に子供の目線でみてもらえるため安心して任せられる

⑤ 育児経験がある保育士なので患児以外の兄弟の相談ができる

以上の結果が得られたが，欠点に対する意見は上がらなかった．

2） 患児の反応

① 辛い治療の後は機嫌も悪くだらだらしていることが多かったが，保育士や他の患児と遊びたいために規則正しい生活が送れるようになった

② 親に依存していたことを自らするようになった

③ よく笑うようになった

④ 人見知りが激しい子供なのに保育士とすぐに打ち解けていた

3） 保育士業務に対する要望

① クリーンルーム内でも色々な遊びを提供して欲しい

Ⅲ. 考察

小児は入院することによって，今まで生活してきた家庭・地域環境から新しい環境に慣れることや疾病の治療・処置による苦痛，恐怖心，不安などの体験を余儀なくされる．そのため，入院中は小児の社会性が育ちにくい状況にある．上田は[1]「遊びを介して自発的にできあがるグループや治療・教育的な意図から大人がつくるグループ遊びによって楽しみながら他の子供たちと交流の仕方を学び，情緒・社会性の発達が促される」と述べている．今回の保育士導入においてプレイルームの環境が充実し，そこで遊びを提供することで，患児がプレイルームを活用する機会が増えた．そしてそこで，他の患児との交流の場を持つことで満足感が得られ自立心が確立できたと言える．また，治療に対する不安や緊張が軽減し，笑顔が増えた，泣く回数が減ったなどの精神的健康に繋がったと考える．また，保育士導入によって「ケアの充実」と答えた看護師が半数以上いたが，これは看護師の時間的余裕が生まれたことにより，ケアの必要な患児に対して集中的に接する事ができ，さらに遊ぶ様子から状態を観察する事が容易となり看護ケアの充実に繋がったと考える．

また，患者家族にとっても児の入院は日頃の生活から大きく変化するため，不安や負担が強く精神的ストレスも多い．その中で患児の笑顔が増えた事や，子供を気にせず自分の時間が持てるようになった事は，家族の不安や負担の軽減に繋がったと考える．

保育士への要望については，看護師から保育士との情報交換に関する意見が多かったが，これは患児の生活や治療内容等の情報を共有し理解することで，患児の安全性の確保や入院中のＱＯＬの向上を図るためにも重要である．患児の発達段階だけでなく，疾病・治療・処置などの影響も理解した上で遊びを援助していくことが必要である．また，患児が多く集まるプレイルームが保育士の主な活動場所になっているのが現状であるが，今後はクリーンルーム等の病室にも訪問し，遊びを提供していくことが求められていることも明らかになった．

Ⅳ. まとめ

1．保育士の導入で看護ケアや遊びの援助が充実した．また，患児は入院生活の中でも集団で遊ぶことで治療に対する不安や緊張が軽減し，満足感が得られ自立心の確立や精神的健康に繋がった．

2．保育士の導入によって患者家族にとっても入院生活の中で，児の精神的健康や自分の時間が持てることで，不安や負担の軽減に繋がった．

3．今後の課題として，保育士と患児の様々な情報を共有できる場を設け，互いに連携し患児の安全性の確保とＱＯＬの向上を図っていくことが必要である．

引用・参考文献

1） 上田礼子：入院児と遊び，小児看護，12(9)，1147，1989

2） 大橋裕子・山本和子；入院中の子どもの遊びと看護婦・保母の役割②保母の立場から，小児看護，16(9)，1072，1993

3） 込山洋美：プレパレーションの理論と実際，小児看護，29(5)，2006

4） 田中恭子：小児の医療と現場で使えるプレパレーションガイドブック，日総研出版，2006

5） 高橋由紀子・鈴木真由美・牧ゆかり：緊急入院した子供への遊びの援助－情緒ストレス反

応を評価してー，小児看護，32，2001
6）　大井弘子・萩原ちはる・佐藤ひとみほか：入院中の子供と“遊び”の実態，小児看護，29，1998
7）　濱田滋子・石川清美・長谷川桂子：1～2 乳幼児病棟における遊びへの援助のあり方，小児看護，22，1991
8）　井上玲子・児玉千代子：小児と家族の入院環境の現状－神奈川県内の病院の看護師に対するアンケート調査よりー，小児保健研究，63(3)，2004